

学習者に聞く： 言語運用能力の自律的発現 とその限界

発表者

藤本かおる（武蔵野大学）

篠塚麻衣子・湯山トミ子（東京都立大学）

本発表の流れ

1. 研究の背景
2. 調査の目的と方法
3. それぞれの教育現場が抱える問題（調査対象者を中心に）
4. 事前アンケート結果の概要
5. 事後アンケート結果の概要
6. まとめと今後の課題

研究の背景

- 現行の多言語学習は言語単位で構成されるモノリンガル型
- 学習者の言語能力は、言語単位に分割された形態
- 相互に関係性をもたず、内在的、多層的に育まれ、個別に運用
- 学習者が自らも多層的に自らの内部に育まれる言語学習の積み重ねによる言語能力（＝統合的な言語能力）を自覚的、意識的に認知、活用することは困難

調査の目的

1. 統合的言語能力の学習者における状況を理解するため
2. 多言語資源として活用していくために、言語学的視点からだけでは見えない学習者自身の内在的な統合的言語能力の状況及び学習者自身の認知状況を知るため

実施の概要

日時：2月27日、28日（どちらか1日）

調査対象者：都内私立大学4年生1名、都内理系私立大学1年生4名の合計5名

実施スケジュール：約3時間

実験主旨の説明、実験前のアンケート記入 60分

スマホで要所を提示して説明 30分

学生による試用60分

使用後のアンケート 30分

実施形態：zoom

それぞれの教育現場で抱える問題

1. グローバル系学部
2. 理工系学部

グローバル系学部

- トライリンガル教育を実施
- 日本語母語話者の場合、1年次から3年次まで、英語と中国語を学ぶ
- 英語と中国語は選択必修で、他の語学選べない

- 1年から3年まで英語と中国語を週2回ずつ
- 英語はコミュニケーション重視の科目と文法を押しやる科目に分かれている
- 中国語はそういう区別はない

グローバル系学部学科

【調査対象者A】

- 都内私立大グローバル系学部学科2023年度卒業、観光業界（ホテル）に就職予定
- 英語に関しては、3年間通して一定の成績を維持（AおよびB評定）
- 初年次前期の中国語はSを取得、後期はBとAで、初学者として成績が悪いわけではなかった
- 2年次前期は成績が急降下（CとD）

→2年次に中国語の成績が下がる学生が一定数いる

中国語の問題点（学生の嘆き）

【1年次】日本で発行されたテキストを使う（つまりは日本語で中国語を学ぶ）

- 中国語教師は日本語が堪能もしくは日本語母語話者

→中国語、楽しい！

【2年次以上】英語圏で発行されたテキストを使う（つまり英語で中国語を学ぶ）

- 2年以上になると、クラスによって担当教員の日本語力が異なる
- 1年次に「中国語たのしい！」と言っていた学生や成績優秀だった学生の成績が、2年次になり著しく下がることもある
- その結果・・・
一定数の成功者<単位を取るためだけに勉強している大多数>一定数の脱落者

ゼミ指導教官からみたトライリンガル教育の問題点

- そもそも学生の入学時の学生の語学教育に対する認識の甘さが語学学習に与える影響
- 英語学習がさほど得意ではなかったり、英語は好きだが成果を出していないため本学科を選ぶ学生が多い（入れそうなところに入る）
- 英語学習が得意な学生を想定したテキストを使い続けていることの問題点
- 英語が得意な学生が英語を活用して中国語を学ぶ想定になっている
- 英語力が中国語理解の妨げになっている可能性
- トライリンガル学習が活かしていない現状

→統合的言語能力の生成が促されていない

就活に活かせるトライリンガル学習経験

- 日本語教育と観光学を学科の柱にしており、求人も多いため観光業を希望する学生が一定数いる
→対象学生もホテルに就職
- 1年だけでなく3年次までのトライリンガル教育の経験が活かしている可能性がある

理系私立大学理系学部

調査対象者B,C,D,E：都内理系私立大学1年生

英語教育：1年次から手厚くある

中国語教育：2年次以降の教育機会があまりない

- 1) 必修でその時だけ頑張っても、単位を取れたら終わりの学生が多い
- 2) 2年次の授業がない学科もある
- 3) 2年次の授業が前期だけで、大学として1.5年間分しか教育を用意していない学科もある
- 4) 1年次の学習形態（週何コマか、教員はネイティブスピーカーか等）が学科によって異なる

事前アンケート結果の概要

1)調査対象者の外国語学習歴等

- 学校教育以外の英語教育の経験があるものが多い
小学校から英語を学んでいたもの3名（学校、塾）
英会話塾1名
- 中国語学習は4名が大学入学後から、1名は高校で中国語の勉強を始めている
- 外国語学習は、「とても好き」2名、「まあまあ好き」3名
- 外国語学習の動機は、他文化理解、コミュニケーション能力の向上、将来の機会の拡大が主であった

事前アンケート結果の概要

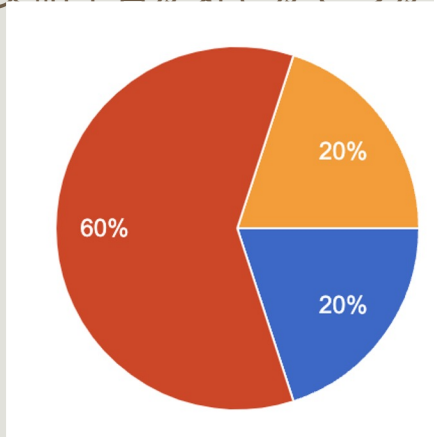
2)日本語が母語であることの外国語教育への影響

- 日本語は、言語の柔軟性と創造性があり面白い言語だと思っている反面、外国語を学ぶ場合には困難感があると感じている
- 中国語と日本語は漢字という共通点があることにより、文字に関する抵抗感が低い
- 一方、英語でも中国語でも日本語とは文法が大きく異なる事が多いため語順などの点で苦勞することが多い
- 発音にもマイナス影響があると感じている

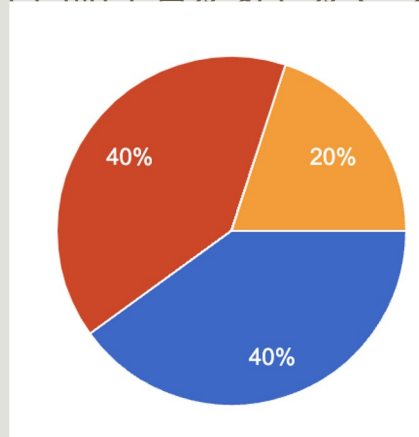
事前アンケート結果の概要

3)英語と中国語学習について

英語学習が好きかどうか



中国語学習が好きかどうか



- とても好き
- まあまあ好き
- あまり好きではない
- 好きではない

- 英語学習と中国語学習の「あまり好きではない」回答者は別の学生

事前アンケート結果の概要

3)英語と中国語学習について

【英語】

(+) 英語圏の文化に関心がある（音楽・映画）

(+) コミュニケーションできる人の多さや普遍性の便利さ

(+) 理解できた時の喜び

(+) 自信に繋がる

(-) 単語やイデオムが苦手

(-) 文法の理解が難しい

【中国語】

(+) 具体的な地域や文化への関心

(+) 英語に次いで話者が多い

(+) 英語以外の言語が理解できるようになる達成感や楽しさ

(+) 漢字があり日本語と似ている

(-) 使う場所がない

事前アンケート結果の概要

4)発音・文法で、一番大変だったこと

【英語】

- RとLの発音やTHの発音など日本語にない発音
- 省略したり繋がったりするところ
- 想定していた発音と本来の発音が違う
- 自動詞と他動詞を見分けること
- 時制の判断
- 主語
- 読解問題における複雑に入り組んだ文法の理解

【中国語】

- ピンインの習得
- 発音、特に巻き舌など
- chの発音とzhの発音などの発音のしわけ
- 四声
- 後ろの単語の四声の種類により、前の単語の読み方（発音の仕方）が変わる
- 「了」の複数の意味の使い分け
- 量詞を覚えること

事前アンケート結果の概要

5) 学習していて嬉しかったこと、将来的な活用

嬉しかったこと【英語】【中国語】とも

- 実際にコミュニケーションできた時
- 小説（英語）、看板（中国語）を読めて理解できた時
- 聞いたことが理解できた時
- 発音を褒められた時（中国語）

今後の活用

- 仕事での活用
- 研究での活用
- 実生活でのコミュニケーション

事前アンケート結果の概要

6) 三言語の関連性について

- 母語日本語、英語、中国語、それぞれの言語について関連性については、「あまり感じたことがない」2名、「時々感じる」2名、「よく感じる」1名
- 英語と中国語に関しては、語順などの文法面で近しいと感じることがある
- 中国語と日本語は単語面で近しいと感じることがある、量詞等に関連性があると感じる
- 英語と日本語もことわざ言い回しに関連性があると感じる

- 5人のうち4人（理工系生）は、日本語と英語、日本語と中国語、英語と中国語を、「時々意識的に関連付けている」が、1名（グローバル系学生）は「全く関連付けていない」

事前アンケート結果の概要

7) それぞれの学習への助けになっているか

- 「日英中三言語を学んでいて、それぞれの言語学習がほかの言語学習の学習の助けになっているか」全員が「まあまあ助けになっている」
- 具体例
 - ・ 日本語と中国語は文法が似ている気がしたので手助けになったと思う
 - ・ 文法面で助けになっています
 - ・ 文法の理解（中国語と英語）単語の理解（中国語と日本語）
 - ・ 直訳をせず、意識をすることで文章が理解できやすくなる点
 - ・ 中国語学習の際、漢字がある程度理解できる点

事前アンケート結果の概要

7) それぞれの学習への影響

【中国語学習の英語学習への影響】

役に立ったか		マイナスに影響したか	
まあまあ役に立った	あまり役に立たなかった	あまりなかった	全くなかった
3	2	2	3

事前アンケート結果の概要

7) それぞれの学習への影響

【中国語学習の英語学習への影響】役に立った点

- まあまあ役に立った
 - ・ 中国語を学習したことによって、英語をまた違った面からみることができるようになった
 - ・ 文法面ではbe動詞の文法と是の文法が似ていたりするなど、かなり近いものだったので英語の文法を知っていて役立った
 - ・ 中国語を学んだことで、文法面での英語学習のときに勉強の仕方が変化した
- あまり役に立たなかった
 - ・ 発音が少し英語に似ているところがあるがそれ以外は特になかった
 - ・ 学習した当時は、あまり関連性を感じられなかった。

事前アンケート結果の概要

8) 三言語の連携について

- 「母語日本語だけでなく、英語中国語を自分の言語学習の成果、力として連携させたい」については、「とてもさせたい」2名、「まあまあさせたい」3名
- 連携させたい理由は、総じて多言語ができることでチャンスや視野が広がるため
- ただし、連携には文法や発音の違い、習得に時間がかかること、心理的ハードル、そして、「3言語を同時に使って学べる本や教材が少ないこと」も挙げられた

事前アンケート結果の概要

8) 三言語の連携について

- 言語の連携には以下のようなことが必要であると感じている
 - ・ 時間をかけて学ぶ
 - ・ 理解を深める
 - ・ たくさん実際に使って、言語使用に慣れる、自信を持つ
 - ・ 日本語と中国語、英語の単語を連動させて覚えていく
 - ・ 実用的なことを学ぶ

- 実際に連携を促すためには以下のような助けがあると良い
 - ・ 連携させられるような気付きを得られる機会
 - ・ 発音やリスニングの練習ができるような助け
 - ・ その言語を身近に感じられるようになれる機会
 - ・ 3言語を同時に使える教材やアプリ

事後アンケートの結果

アプリを使用してみて・・・

- 母語日本語を含めて、日中英三言語を自身の言語能力として
関係させ、より発展的な言語活動をしていくことについての
関心は「とてもある」3名、「まあまあある」2名
- アプリの試用は協力者に自由に学習する項目を選んでもらったが、以下のような理由で学習項目を選んでいた
 - ・ 苦手な項目（RとL）
 - ・ 基本的な項目（自己紹介、母音）
 - ・ 興味があるテーマ（料理、自然現象、医療）

事後アンケートの結果

- アプリを試用してみたの評価は概ね前向き
 - ・ やってきた内容以上だったのでいい勉強になった
 - ・ 内容は興味深かった
 - ・ 例文を学んだあとに三つの言語それぞれの文化的な説明や、そのほかの言い方などのポイントが書かれていて、とても楽しく学ぶことができた
- 文字の多さはマイナス印象

事後アンケートの結果 アプリ改良について

【コンテンツ内容】

- よりネイティブに近い発音
- 文法の学習もあれば表現の学習が分かりやすくなる
- 人文系の内容があると面白い

【機能面】

- 「進む」「戻る」といったキー
- ブックマーク機能
- 一問一答機能
- 学習成果をはかるちょっとしたテストのようなもの
- その発音を評価してくれる機能
- 次へ飛べる機能
- 一つ戻るボタン
- 学習済みのところは印がつく

事後アンケートの結果

日中英三言語同時学習アプリへの要望

- ショートセンテンスで、日中英を連動させた内容
 - 日本語、中国語、英語が関わりあっていることをもう少しわかりやすくする
 - 学習自体を日本語ではなく、英語や中国語で行うことができれば、三言語の力がより発揮できる
- 日中英三言語の能力が同じように高いわけではないので、学習に困難をきたす可能性があるため、これはとても難しく感じる
- 実際に三言語を連結出来るのであれば非常に言語学習において有意義なアプリになると思う
 - 今回のアプリの改訂版が出るといい
- 図をズームアップで大きくできるなど、見やすさが必要

まとめと今後の課題

- 4年生と1年生の差
 - ・ 4年生：語学科目から離れて1年以上、大学生活の結果も出た時期
 - ・ 1年生：大学での学びの渦中にあり、やる気がある
- 語学学習のモチベーションの差
 - ・ モチベーションが高い方が言語間の差異や共通点、相互の影響などに意識を向けている傾向がある
- 学びの渦中にある方、そして学習モチベーションが高い方が言語の統合を意識しやすい
- ただし、上記に当てはまらなくても学習経験があれば、言語の統合について思い当たることもある
- 連携学習を行うことで、統合的言語能力の生成を促進することができるのではないか

それぞれの学習者の問題点の解決に向けて

【グローバル系】

- 使用頻度や将来的な活用機会が少ない中国語は、教師やテキストの変更という理由により簡単にモチベーションが低下し成績も下がる

【理工系】

- 学科により形態差のある1年次の初級授業の後、後継授業の存在も学内で統一がない、第二外国語は一瞬体験して終わり、勉強した意味をあまり感じられず、使う事もない



英語教育の中に連携学習を埋め込んで学生各自の自由意志で学習を広めることができれば、意欲のある学生に対して学習機会を提供できる